１　ミズナラ等の木材生産管理と自然環境の保全調査（第４報）

予算区分：県　単　　研究期間：平成 10～14 年度
担当科名：森林育成科　　担当者名：小谷　二郎
千木　　容

Ⅰ．目的

本県の冷温帯地域の代表樹種であるミズナラ等の天然生林の有効利用と自然環境を保全するため、林分構造調査や林内での更新状況に関して調査を行う。

Ⅱ．調査地および調査方法

今年度は、白峰村大嵐山の 55 年生のミズナラ林内で発生した稚樹の生存と、林床処理（1m 以下の低木・草本の除去）による光環境改善効果との関係について試験した。林床処理は 6 月に行い，11 月に稚樹の生存数を調べた。

Ⅲ．調査結果

林床処理によって，林内の相対照度を 2.7%から 4.5%（1.7 倍）に改善した。光環境の改善によって，当年生稚樹で 13.6%，1 年生以上の稚樹で 4.3%生存率が向上した。無処理区における 1 年生以上の稚樹の生存率が比較的高かったこともあり，林床処理は，予想に反して当年生稚樹の生存率向上に寄与した。

表－1.　ミズナラ稚樹の林床処理による生存数（率）の比較

	当年生	1年生以上
	6 月-11 月（生存率）	6 月-11 月（生存率）
無処理区	5.0-3.9 (78.0%)	12.2-10.1 (82.8%)
処理区	8.3-7.6 (91.6%)	11.6-10.1 (87.1%)

単位：㎡当たり。処理方法：林床植生の刈り払い

Ⅳ．今後の課題

処理効果の持続性や成長に対する効果も検討する必要がある。また，上木の伐採によるギャップ効果との組み合わせについても検討する必要がある。